

【開講日】平成29年11月18日(土)

あき 千代田サテライト教室

文化

【連続講座】

千代田
296040

武士の権力論 第四弾

講座概要	武士といっても源頼朝(みなもとのよりとも)、足利尊氏(あしかがたかうじ)、織田信長(おだのぶなが)、徳川家康(とくがわいえやす)など、人物によって武士に対するイメージが異なると思います。さらに、武士とはそもそもどういう存在であったのか。そうした、素朴な疑問を「権力」という視点から考える講座の第2弾です。今回の連続講座では、武士のもつ「権力」という視点から、アプローチします。		
講座No.	日 程	講 師	タイトル
296040	全講座(7回)		
296040a	11月18日(土)	本学教養教育リサーチセンター研究員 東京大学史料編纂所非常勤職員 生駒 哲郎	八幡信仰と武士 武神誕生の歴史
296040b	12月9日(土)	東京理科大学准教授 神野 潔	鎌倉幕府とその権力 一法、裁判、警察一
296040c	1月13日(土)	慶應義塾大学非常勤講師 丸島 和洋	「軍事政権」としての戦国大名 一武田氏滅亡の背景一
296040d	1月27日(土)	東洋大学文学部非常勤講師 千葉県文書館嘱託 柴 裕之	織田信長の天下一統事業と政治構想 一天下人信長の目指したもの一
296040e	2月3日(土)	國學院大学兼任講師 立正大学非常勤講師 堀越 祐一	豊臣政権の大名編成
296040f	3月3日(土)	渋谷区郷土博物館文学館学芸員 青鞞文庫主宰 岡田 謙一	畠山一族の世界
296040g	3月17日(土)	日本大学文理学部非常勤講師 清瀬市史専門調査員 小川 雄	徳川権力と「海の武士」たち
時 間	13:00~14:30		
受 講 料	*全講座(7回)お申込み 9,000円(全7回) *お好みの講座を選んでお申込み 1,500円(1講座につき)		
場 所	武蔵野大学 千代田サテライト教室 (千代田女学園中学校・高等学校内)		
・ 教室は講座の15分前よりお入りいただけます。 (前の時間に講座がある場合は教室の準備ができるまでお待ちいただくことがあります) ・ 駐輪場、駐車場はありませんのでご了承ください。			

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学

お問い合わせ TEL 042-468-3222
FAX 042-468-3211

開室日: 月 ~ 金曜日 9:30~18:00
土曜日 9:30~15:30 (祝日を除く)

武蔵野大学 社会連携センター

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
www.musashino-u.ac.jp

担当講師	講義内容
講座No. 296040a	八幡信仰と武士 武神誕生の歴史
<p>本学教養教育リサーチセンター研究員 東京大学史料編纂所非常勤職員</p> <p>生駒 哲郎</p>	<p>八幡神はそもそも応神天皇との関係が強い神でした。それが武士の神として祀られるようになります。</p> <p>石清水八幡宮や鶴岡八幡宮、篠村（しのむら）八幡宮や東大寺に隣接する手向山（たむけやま）八幡宮などと武士の信仰を考えます。</p> <p>征夷大將軍＝清和源氏＝八幡信という系譜の理論を源頼朝、足利尊氏・義満を中心に検討します。また、豊臣秀吉が大明神、徳川家康が大権現として神格化したプロセスも八幡信仰との関連で紐解いていきます。</p>
講座No. 296040b	鎌倉幕府とその権力 一法、裁判、警察一
<p>東京理科大学准教授</p> <p>神野 潔</p>	<p>12世紀末に源頼朝が鎌倉に作り上げた武家政権である鎌倉幕府は、具体的にどのような権力を持った存在だったのでしょうか。また、その権力はどの範囲にまで及ぶもので、それは鎌倉時代を通してどのように変化していったのでしょうか。本講義では、鎌倉幕府が制定した法の内容や、裁判権・警察権の及ぶ範囲などについて、史料を通して具体的に検討し、鎌倉幕府の権力とその構造について考えてみたいと思います。このような検討は、「そもそも鎌倉幕府とはいったい何なのか」という、鎌倉幕府の本質を考えることにもつながると思います。</p>
講座No. 296040c	「軍事政権」としての戦国大名 一武田氏滅亡の背景一
<p>慶應義塾大学非常勤講師</p> <p>丸島 和洋</p>	<p>戦国大名の権力の本質のひとつは、戦争から家臣を「保護する」ことにあります。したがって戦国大名には、「勝ち続ける」ことで味方を守り抜くことが求められました。この講座では、織田信長に滅ぼされた武田氏最後の当主武田勝頼を素材として取り上げ、武田氏滅亡の過程と、それを決定づけたものがなんであったのかを検討します。実は勝頼は、長篠合戦の大敗から勢力を挽回し、むしろ信玄の時代よりも広大な領国を築いた存在でした。にもかかわらず、織田信長本人をして、「まさかわずか30日程度で決着がつくとは思わなかった」と言わしめるほどあっけなく滅亡してしまいます。武田氏滅亡の背景を探ることで、戦国大名の本質を考えます。</p>
講座No. 296040d	織田信長の天下一統事業と政治構想 一天下人信長の目指したもの一
<p>東洋大学文学部非常勤講師 千葉県文書館嘱託</p> <p>柴 裕之</p>	<p>織田信長については、その政治方針である「天下布武」のもと、各地の諸大名を軍事制圧し国内統一である天下統一を進めていき、さらには新たな国家構想を打ち立てたとされます。しかし、実際に信長と諸大名とはどのようにあったのでしょうか。</p> <p>この問題は、信長が進めていた「天下一統」という事業の実態にも関わります。さらに、そのうえで信長はどのような立場にあるとしたのでしょうか。本講義では、同時期の「日本国」の有りさまをふまえたうえで、信長の進めていた天下一統事業の実態とそのうえになる政治構想を考えます。</p>
講座No. 296040e	豊臣政権の大名編成
<p>國學院大学兼任講師 立正大学非常勤講師</p> <p>堀越 祐一</p>	<p>長きにわたる戦国時代を終結させ全国を統一した豊臣秀吉の下には、様々な種類の大名が混在することになりました。秀吉の身内である秀長・秀次といった「一門大名」や、石田三成や加藤清正などに代表される「直臣系大名」。織田信長の旧臣で、かつては秀吉と同僚であった前田利家・蒲生氏郷をはじめとする「旧織田系大名」。そして、毛利輝元・上杉景勝・伊達政宗といった「旧戦国大名」。秀吉は、こういった雑多な系統をもつ諸大名を自らの政権内に再編する必要に迫られましたが、その際に用いられたのが豊臣・羽柴という氏姓でした。本講座では、このような氏姓を媒介とした豊臣政権による大名編成を中心に解説します。</p>
講座No. 296040f	畠山一族の世界
<p>渋谷区郷土博物館文学館学芸員 青氈文庫主宰</p> <p>岡田 謙一</p>	<p>室町幕府は足利將軍を頂点に、足利一門が各地に守護大名として分派して行きました。なかでも、有力な守護が管領として將軍を補佐することとなりますが、三管領として斯波氏、細川氏とともに畠山氏も任命されるようになりました。この管領家を中心に、能登畠山氏が守護大名として活躍することとなります。畠山氏は、たびたび將軍から惣領家の家督について、容喙されていますが、それでも管領として將軍を補佐する役目を担い続け、紆余曲折はあるものの戦国時代を経て江戸時代には旗本として江戸幕府に仕えて行きました。</p> <p>今回の講座では、南北朝時代から戦国時代までの畠山氏について、概説的にはありますが、歴代の事績についてお話しして参りたいと考えています。</p>
講座No. 296040g	徳川権力と「海の武士」たち
<p>日本大学文理学部非常勤講師 清瀬市史専門調査員</p> <p>小川 雄</p>	<p>従来、戦国時代の海賊（海上活動を存立の基盤とする軍事勢力）は、江戸時代に「自由」「自立」を喪失して、あたかも「陸に上がった」かのように論じられてきました。また、「鎖国」「海禁」をめぐる先入観も、政治秩序の中心である徳川権力が海上軍事に消極的であったとする誤解を生じさせる一因となりました。ですが、現実の徳川氏は、東海地域で領国を形成して、当該地域（伊勢湾・三河湾）の海上勢力を服属させ、水軍として運用していました。本講義では、徳川氏に従った「海の武士」たちが、徳川権力の成長に応じて、海上活動の規模・範囲を拡大させていった状況から、「自由」「自立」のみでは捉えきれない水軍・海賊のあり方を提示します。</p>